



目 次

支部長ごあいさつ	(60、S48年卒) 中西 憲幸	1
総会での話題提供①「製薬会社での臨床開発の仕事を通して学んだこと」	(85、H10年卒) 高瀬 明子	2
総会での話題提供②「癌領域における薬薬連携ー保険薬局での取り組みー」	(60、S48年卒) 田中加代子	2
東日本大震災から5年が経過して		
三陸の交通網の現状	(59、S46年卒) 秋田 博敏	3
宮城での同期会と被災地訪問	(59、S46年卒) 小川 正己	3
東日本大震災からの復興に向けた一つの提案	(59、S46年卒) 津久井和夫	4
理学療法との付き合い10年	(59、S46年卒) 石田 行知	5
私立大学薬学部教員に赴任して感じたこと	(68、S56年卒) 益見 厚子	5
チャラ男と根回しオヤジとおせっかいオカン?	(77、H2年卒) 齋藤みのり	7
焼肉パーティー	(78、H3年卒) 坂東 裕志	7
百瀬雄章先生との思いで	(84、H9年卒) 宅和 友文	8
空前のゴルフブーム到来!?	(89、H14年卒) 伏木 洋司	9
再現性の重要さ	(107、H27年卒) 中村 勇斗	9
一期一会を大切に	(107、H27年卒) 小澤 茂喜	10
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 柿崎 直和	11
平成27年度首都圏支部活動報告・支部役員		12
平成27年度会計報告、平成28年度予算(案)		13
平成27年度 支部年会費納入者一覧		14
編集後記		17
平成28年度定期総会開催案内及び会場交通案内		18
平成27年度首都圏支部総会集合写真		19



## 1年を振り返って

富山薬窓会首都圏支部長（60、S48年卒） 中西 憲 幸

この1年は北陸新幹線の開業により、首都圏では北陸がクローズアップされました。しかし、富山の中心部に観光する所は少ないので、多くの観光客は富山を通過して金沢を訪問したようです。一方ビジネス客が利用していた東京・富山便の飛行機はANAのドル箱でしたが、お客を新幹線に奪われ飛行機のサイズを小さくしました。それでも採算が厳しいようで、3月下旬から1日6便の運航が4便に減便となりました。東京・富山間が最速の新幹線では2時間8分で、雪による遅延もないので、飛行機は歯が立たないようです。

さて、2年続けて使用した総会の会場（ビジョンセンター日本橋）がクローズになるのであわてましたが、系列の会場が八重洲にあるので、今年の総会はビジョンセンター東京で行います。東京駅は丸の内から見た旧駅舎が有名ですが、八重洲から見る東京駅はとてもモダンです。また東京駅の上には建物がなく、東京湾側から丸の内側へ海風の通り抜けが改善され、ヒートアイランド現象の緩和が期待されています。

今年の総会の話題提供は現役で活躍されている2名の女性にお願いしました。60回の田中加代子さんと85回の高瀬明子さんです。田中加代子さんは保険薬局勤務で、最近では内服の抗がん剤は外来処方される機会が増え、服薬指導に必要な情報を病院から入手するため、病院薬剤部と保険薬局との薬・薬連携のお話を聞かせて頂きます。高瀬明子さんは外資系の製薬会社の臨床開発の仕事をされています。外資系企業のダイナミックな開発のお話が楽しみです。

例年通り、総会に参加すると薬剤師研修センターの研修認定薬剤師の1単位を発行します。4月に調剤報酬改正が実施され、かかりつけ薬剤師制度が導入されました。この制度の認定要件の一つが研修認定薬剤師です（運用は平成29年4月より）。保険薬局に勤務されている薬剤師の方には同窓会に参加して、単位も取れます。

最後に1年間の支部活動を紹介します。毎月開催しているのが第三金曜日に東池袋の牛たん屋の多津よしで開催している三金会です。毎回数名参加し、美味しい牛たん舌鼓を打っています。仙台の有名チェーンの牛たんより美味しいので、是非ご賞味ください。

3月23日の富山薬窓会総会終了後、薬学部の卒業生による謝恩会に参加して、今年首都圏に就職する学生にアプローチし、首都圏支部総会の参加を呼び掛けています。その甲斐もあり毎年フレッシュマンが参加しています。幹事会は年3回開催し、総会の話題提供の候補者選びや首都圏遠久原稿の依頼先を探していますので、ホットな話題があればお寄せください。

年会費は郵便局の振り込みに加え、コンビニでも支払えるようになり、約300名から頂戴しています。そのおかげで、毎年繰越金が若干目減りしているものの、危機的な財政状況から抜け出すことができました。皆様方のご協力に感謝するとともに、今年も引き続き会費納入をよろしく願います。

## 話題提供①

# 製薬会社での臨床開発の 仕事を通して学んだこと

(㉟、H10年卒) 高瀬明子

薬窓会首都圏支部総会の初参加ー総会案内で見た東(葛西)美恵さんの演題にひかれ、当時幹事長の伊藤さんにお電話をし、思い切って参加してみた平成20年ーから早くも8年。以来ほぼ毎年、受付係の一人として皆様をお出迎え、話題提供の冒頭はお預かりした大金(会費)の金額をドキドキしながらチェックするのが恒例でしたが、今回は、初めて話題提供係も務めさせていただきます(昨年に引き続き、本当の若手にも受付係をお願いしなくては!)。私が社会人になってからずっと携わっている製薬会社の臨床開発の仕事をテーマに、お話しさせていただきます。

臨床開発は、非臨床試験から期待される有効性や安全性が、実際に人でも認められるかを臨床試験(治験)で確認する、医薬品/ワクチンの研究・開発の最終段階を担当します。臨床開発と一口に言っても、仕事の内容や範囲は、それぞれの会社の規模、体制、方針などによってもかなり異なるようです。同業他社の人たちと話していると自分の環境の良い面/足りない面に気付かされ、自社のみでなく業界全体を意識して広い視野を持たなければという思いになります。

臨床開発の仕事のおもしろみは沢山あるのですが、中でも、患者さんのためになれることに繋がる点と、チームワークによって大きな成果を得られる点が大きいと感じています。前者に関連し、私がまだ駆け出しのモニター(医療機関の医師やスタッフとの対応者)として小児科領域の治験を担当していた頃の忘れられないエピソードがあります。5歳の患者さんで、0歳時からずっと、毎年特定の季節に症状が悪化して入院していたのですが、カルテに「治験薬よく効いている。治験に参加した今年だけは初めて入院しなかった!と、本人も家族も大喜び。」という医師の記載がありました。自分の仕事が本当に人のためになれていることを実感でき、とても嬉しく、今でも臨床開発の仕事に対する大きなモチベーションになっています。

これまでの演者の方々のような、なるほど

とさせていただけるような話題ではなく、ごくごく普通の仕事紹介になるかと思いますが、何か少しでもご参考になる点があると幸いです。(MSD株式会社)

## 話題提供②

# 癌領域における薬薬連携 ～保険薬局での取り組み～

(㉟、S48年卒) 田中加代子

昨今外来での抗癌剤治療の増加や地域包括システムによる在宅での癌患者の増加に伴い、保険薬局の窓口で抗癌剤を投与する機会が多くなりました。またそれぞれの地域で「薬薬連携」「多職種連携」が広がり、保険薬局に求められる姿が今までのあり方とはかなり違ってきております。

今回たまたま門前の病院と門前4薬局で「薬薬連携」が始まり、軌道に乗り始めましたのでご紹介させていただきます。

私が勤務する薬局は船橋市立医療センターの門前に位置し、12年ほど前に医薬分業に踏み切りました。その際に病院の職員を門前の薬局でお引き受けしたことなどもあり、当初より病院と薬局との関係はかなり良い状態でした。しかしながら病院からの患者さんの情報はほとんどなく、抗癌剤などが投与された場合、病名などについてはこちらの推測に頼らざるを得ない状態でした。

そこでたまたまバス通勤で一緒だった病院薬剤師のある先生(幸運なことに現在薬剤部長に昇進)に平成26年9月頃こちらから「薬薬連携」の申し出をしました。その際の答えは「11月に病院の薬剤師が癌専門薬剤師になれるはずなので、その者を中心にやっていきたい。ついてはもう少し待って欲しい」との返答でした。その後癌専門薬剤師が誕生し、翌3月にはキックオフミーティングを開催することができました。その際に今後の方向性を決定し、現在第5回まで実施されております。

今回はこの薬薬連携により薬局での服薬指導がどのように変わって行ったか、また病院(医師も含め)との関係の変化、今後の問題点などについてお話することで、現在の保険薬局の状況をご理解いただければと思います。

(薬樹株式会社 薬樹薬局船橋金杉)

## 東日本大震災から5年が経過して

4年前の首都圏遠久朶に東北薬科大学 故高畑先生から震災時の様子を寄稿いただき、今回、5年目という機会に、昨年10月に第58回生の同期会が日本三景“松島”で開かれたことから、首都圏支部加藤副支部長（58回）より、仙台在住の幹事 秋田 博敏氏の他、出席された首都圏在住の小川 正己氏、津久井和夫氏に東日本大震災に関連する記事の寄稿をお願いし、掲載させていただきました。いつまでも記憶にとどめ、風化させることのないようにしなければと思いますし、首都圏にあっても大きな参考とする必要があろうと思います。（編集者より）

### 三陸の交通網の現状

（㊦、S46年卒） 秋 田 博 敏

私は、富山大学卒業後、仙台に移り45年になります。定年退職して3年目の昨年3月上旬、鉄道で宮古から八戸まで三陸海岸北部の旅をしました。また、昨年5月末には自動車で気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島市など三陸海岸南部の旅をしました。その体験から、交通網の整備の必要性を改めて感じました。

新幹線に比べて三陸沿岸部の在来の鉄道は、距離あたり約4倍の移動時間を要します。三陸沿岸の鉄道が単一路線でないこともその原因です。例えば、盛岡で東北新幹線を降りてJR山田線を利用すると、宮古から八戸まで三陸鉄道北リアス線とJR八戸線の2路線を乗り継ぎます。宮古より南は4路線で、釜石まで山田線（震災で現在も不通）、釜石から盛は三陸鉄道南リアス線、盛から気仙沼までは大船渡線（復旧されずBRTで運行）、気仙沼から南は気仙沼線（やはりBRTによる運行）と、乗り継ぎが多く、利便性が損なわれています。

自動車での移動は、在来の国道ですと時間がかかります。三陸沿岸道路（仙台市から八戸市まで全長359kmの自動車専用道路）が完成すれば、三陸海岸へのアクセスは相当に改善されそうです。この道路名は、三陸縦貫自動車道（仙台→宮古）、三陸北縦貫道（宮古→久慈）、および八戸久慈自動車道（久慈→八戸）の総称です。全線開通の時期は不明ですが、三陸北縦貫道を除けば、今後5年で8割くらい整備が進みそうです。

鉄道の旅は疲れず、景色を十分楽しめますが、在来線の便数が一日10便前後で、乗り継ぎも多いので、日程にゆとりが必要です。道路整備が進めば自動車が便利かもしれません。新たな観光資源は“みちのく潮風トレイル”です（太平洋沿岸を福島県相馬市の松川浦から青森県八戸市の蕪島までつなぐ全長約700kmの自然歩道）。環境省の震災復興関連事業として今年度末の全区間開通を目指しています。私は、JR八戸線の種差海岸駅から北端の蕪島まで10km弱を歩き、美しい海岸を楽しみました。トレイル沿いでは所どころで現地でしか味わえない海の幸も堪能できます。三陸の魚介類は震災前の味に戻ってきています。調査からも海底の瓦礫が漁礁になりつつあるとのこと。津波被災地は復興の足取りが遅いですが、昨年3月と5月末に石巻線（小牛田⇄石巻⇄女川）と仙石線（仙台⇄石巻）が相次いで全線開通しました。部分的ですが、少しずつ明るさを取り戻しています。どうぞ足を運んでみてください。（注）BRT：バス高速輸送システム。

### 宮城での同期会と被災地訪問

（㊦、S46年卒） 小 川 正 己

昨年10月に宮城県松島で開催された同期会。懐かしい顔ぶれに会うとすぐに学生時代の気分になり、大変楽しく過ごすことができました。幹事の秋田氏はじめ同期の皆様には本当に感謝です。

さて、同期会が開催された宮城県松島は、常磐自動車道の起点から約350kmの距離。首都圏在住の河内・穂苅の両氏を誘い、自動車で行きました。その道中で目にした景色は、大変興味深いものでした。

常磐自動車道の起点から約210km、福島第一原発から約12km圏に位置する広野ICを通過すると、放射線計測表示が各所に設置されています。放射線計測区域の表示は0.3～4.8μsv/h。この数値では、バイクや徒歩の人は通過できません。なるほど外を歩く人の姿は見当たらず、不思議な光景でした。セシウム137の半減期は約30年ですから、人が居住できるのは百年以上先となりそうです。改めて取り返しのつかない事故が起きてしまったと痛感します。

福島県から宮城県の仙台平野に入ると、高い建物はなく田園が広がります。東日本大震

災時、この地区の津波の高さは3 m程度。当時、高速道路へ上がった人は助かりましたが、当局が高速道路への避難を許可しなかったため、逃げ遅れた犠牲者も多かったようです。

車は名取ICで降り、海岸線に近い10号線を閉上～荒浜地区へ。途中、海岸に面した堅牢な建物の1階の窓ガラスは突き破られており、4年以上経った今も津波の爪痕が残っています。高さ3 m程度の津波でこの有様ですので、10mを超える津波に襲われた地区のことを想像するとゾッとします。津波の教訓から、10号線と並行して道路のかさ上げ工事を現在進めています。

道中、「復興支援車両」というゼッケンを付けたダンプカーが、一般車両を上回るほど走っていましたが、道路工事の進捗状況は20%程度ではないでしょうか。今回の旅では、自然災害の脅威と復興の大変さを目の当たりにしました。

皆様も機会があれば被災地を訪問されると良いと思います。百聞は一見にしかずです。

## 東日本大震災からの復興に向けた一つの提案

(㉞、S46年卒) 津久井 和 夫

### 【はじめに】

東日本大震災は言うまでもなく未曾有の大災害であった。この大災害から如何に立ち直り、復興するかは、大げさではなく日本に課せられた大きな試練であろう。私は震災からほぼ4年7ヶ月経った昨年10月16～17日に遅ればせながら現地の復興状況を見たいと思い、三陸北部海岸部～南部海岸部（陸前高田～気仙沼～石巻）～仙台地区と出かける予定であった。しかし予定は完全に狂ってしまった。原因は、首都圏において交通の便利さに慣れてしまった自分が、地方のそれも津波で完膚なきまで破壊されてしまった地域の交通インフラがどう回復しているか、状況を調べもせずに出かけたためだ。自分の不明を恥じるばかりである。あれから4年半たった今でも交通インフラが回復されていない現状は、他の一般インフラのみではなく生活面における全面的な不自由さも回復されていないことを物語っている。これは、この地域が、一言で「被災地」というにはあまりにも広いこと、東北地方が日本の縮図と言われるように人口

構成が高齢者に偏っていること、その原因として東北地方は寒冷であり、作物の栽培に適さず、過去一貫して出稼ぎの供給地であったこと、そのため若年層がこぞって首都圏に移住していったこと、等々の歴史的過去に加え、大震災以降頻発する余震とみられる地震にすっかりトラウマが体に染み付いてしまったことが挙げられるようだ。さらに、津波による福島第一原発の事故で東京を含む東日本一帯が汚染され、一次産業、特に全面輸入に頼っている生薬栽培は全く不可能となり、この可能性も廃棄しなければならない。それでは、この地方を復興させるにはどのような手があるか。ここで考えてみなければならないのは、英国で北海油田が経済を立ち直らせたという事実であろう。三陸沖に油田があるならば、北海油田ならぬ三陸油田として起死回生の手段となるかもしれない。

【提案】東北～北海道太平洋沖コンビナート構想

平成22年3月、つまり震災の前年である。岩手県海洋資源活用研究会による東北～北海道地区太平洋沖海洋資源の調査がなされ報告されている(1)。これによると東北太平洋沖に石油・天然ガス鉱床が存在する確率がかなり高く期待できる。これは、この調査に先立つ1995年～1999年に実施された「第8次国内石油および可燃性ガス資源開発5か年計画」(2)で、当時の通商産業省が石油開発公団に委嘱して実施した調査が基になっている。残念ながら震災後の進展は何もないし、未だに石油・天然ガス鉱床の発見の報は見当たらない。しかし、もし発見されれば、八戸の工業地帯との間にパイプラインを建設し、鉄鋼業の釜石と連携をとり、さらに北海道室蘭の加工鉄鋼業－苫小牧の貿易業と、一大コンビナート構想は出来上がっている。問題は、三陸沖に石油・天然ガス鉱床が発見されるか否かであり、次いでこれに従い、如何に震災後の余震(3)による地域の人達のトラウマを取り除くかにかかっているようだ。

### 【参考文献】

- (1) 岩手県三陸海域における海洋資源の利活用に関する調査報告書  
いわて海洋資源活用研究会編、pp1～44（平成22年3月）
- (2) ガス資源埋蔵の期待高まる東北の太平洋沖合  
－ 北海道・東北地方のガス・エネルギーサイクルを考える － 石田聖、石

油・天然ガスをレビュー、39(1) pp41-56  
(2005年)

- (3) 東北地方太平洋沖地震の前震・本震・  
余震の記録  
Wikipedia、pp1-24

## 理学療法との付き合い10年

(㊦、S46年卒) 石田 行知

薬学を昭和46年に卒業した後、獣医学、生命科学研究所、そして55歳の肩たたきでシンシナティ大学医学部、最後に現在のリハビリ関連、特に理学療法の分野で正式な職を後1年で終えようとしています。大嫌いだった生物学の世界に入ったのは渡辺和夫先生のお陰で、将来平滑筋研究をやるのだから最初脳波をとりなさいといわれ、脳手術を見学している時に貧血を起したのが、つい昨日の様に思われ、以来、薬理学に携わってきたという事になります。

薬は一剤で何億人もの人を助ける事ができると、薬理学講義では話し、渡辺先生や同期の村上君に非常勤講師として講義を助けていただいています。私や皆様の周囲には多くのお医者さんの友人がいらっしゃる、または薬剤師から医師になられた方もいらっしゃると思いますが、私の原因不明熱の経験から、医者診断も限界があるように思います。さて、理学療法の世界で10年過ごしていると、門前の小僧というのか、ちょっと試してみようと思い始めました。それは、歩くのもやっとの足首を捻挫したときにテーピング直後に痛み無く普通に歩けた事、寝違えて回らない首が数分の術で痛み無く元に戻ったこと、関節の動きがあつという間に良くなる事、呼吸や発声がある術で格段に楽になる事を自分の体で経験したり、靴底に一かけらのパッドを入れることが膝や胸部などの痛みを去り、歩行をあつという間に改善する事を見せ付けられたりした事です。今勤務している理学療法学科には少なくとも二人の素晴らしい理学療法能力を備えた人がいらっしゃって、理学療法は、確実に身体的な不具合を改善する事や、普段の生活の日常動作をより正常に保たせる事ができることを学んだのです。良い理学療法士はマッサージ士ではなく、痛みなどの患部に直接手が行くような人の能力は疑っても良いかも知れません。

因みに、少し低い椅子に深く腰掛けて立ち上がってみてください。左肩から、または右肩からの立ち上がる時の感覚を比べてみてください。今度は、頭だけを左に、または右に45度位回旋させて立ち上がって見て下さい。どちらかが立ち上がり易く、この効果の答えは自分で実感してみてください。年齢を重ねてきますと、その効果は抜群で、電車の椅子から立ち上がる時などに役立ちます。五十肩で手が上がらない、服が着られない、肩こりがひどいなどの方は、良い理学療法士に出会うと、あつという間に良くなります。実は、私も真似事でその術をある程度できるようになりました。さらに筋肉がひどい痛みを伴ってつったときも、あつという間に改善します。一人の患者を確実に改善させる、それも薬なしでということの大切さをようやく最近実感出来るようになりました。

私たち団塊の世代は前期高齢者となりました。元気一杯の方々、かなりの衰えを実感する方々など、これからは個人差が問題となってくるように思います。70を過ぎると、特に薬を常用する人は転倒しないように心がけてください。急な立ち上がりは決してしないでください。高齢での転倒は骨折につながり、確実に寿命を縮めます。健やかな高齢は、良い理学療法士との出会いも一つの鍵になると思います。薬で体の不調が治らない方は理学療法法の窓口を訪れることをお勧めいたします。

## 私立大学薬学部教員に 赴任して感じたこと

(㊦、S56年卒) 益見 厚子

2015年3月に国立感染症研究所を退職し、4月から青森大学薬学部の薬理学担当教員をやっています。

私立薬科大学教員というと、薬剤師国家試験対策中心であり、特に新設6年制だけの薬科大学と聞いたら、これだけのために教員すべてが心身ともに疲労しているという印象があるようだ。そして国立〇〇研究所の△△研究員と聞くと研究中心で安定している、という印象がある。しかし後者は〇〇という研究と業務しかやってはならないが、薬科大学ではどんな研究をやってもいいのである。研究というのは続けて行くと違う領域や分野にも進んでいくものでもあるから、いつまでも〇

〇に留まっていて大きな発見はできるだろうか？というか挑戦してみたいことができるだろうか？研究とは個人の発想を生かすことなのである。

最初に私が青森大学の先生から連絡を受けたとき、“貴大学は他の新設薬科大学のように薬剤師国家試験の合格率を上げることを考えるのではなく、青森県の薬学の発展のために貢献するところですよ”などと聞くと、先方から“先生の言う通りです”という返事をいただいたときはうれしかった。なんで青森県とってしまうが、今から12年前、私がある小さい学術集会で奨励賞を受賞したことがあり、学会会場が青森県だった。これが何かの縁ではないかと思っている。

実はこれまでの自分の勤務生活の中で今が一番楽しく充実感を感じていると言っても過言ではない。その理由はおそらく自分にとってこの就職は100%自分自身で選んだこと、未経験領域だが自分がやりたい、できると思ってチャレンジしていること、ではないかと思っている。今から20年以上前に就職した前職のポストは自分で選んだようであるが所属部門に関しては干渉を受けていた。

私が薬学部の大学院生だったころは女子の院卒は製薬会社研究所では採用されない、というのが原則だった。その後まもなく男女雇用機会均等法、男女共同参画という風潮になり世の中は変化した。しかし、それまで勉強する機会を与えながら優秀な女子学生を長らく社会で活用できていなかった日本社会に対して憤りを感じているのも事実だ（おかげでロールモデルが少ない）。

大学1年生になったばかりの頃、ある教授の授業で“今年も女子学生が多いねえ、女子は結婚して薬学を辞める（諦める）、薬学に女子が多いということは薬学という学問が衰退するということだ”、と言われたことは印象に残っている。薬学を発展させるためには女子ががんばらなくてはならなかったのだ。しかしそれができていなかったのは日本の体制の責任だったと断言する。もちろん教授の差別的発言はよくないが、言わせているのは日本全体の問題なのであるから、この教授をそこまで批判しないことにする。（しかしこの教授自身、女子にがんばってもらおうとは更々思っていなかったことが後に判明し、残念であったが）。

私立大学では学生からの教員評価というアンケートがある。学生が各教員に対して評価

しコメントを書くことができる。私も今の勤務大学で学生から評価されコメントを受けた。私が薬学生だったときは教授に合わせるしかなかったように思う。教授の声が小さく何を言っているか殆ど聞き取れないので皆で順番に毎回カセットテープ（今ならボイスレコーダー？）を持って行って録音したこともある。誰もその教授に“もっとはっきり大きい声で話してください”、と言えなかったし、学生課を通して教授に伝えることもなかった。私立大学が学生中心であるのに対してあのときの国立大学は教授中心だったのではないだろうか。教授が定年退官になってもしばらく新任が入ることがなかった研究室もあった。当時でも生命科学の最先端の研究ができそうな教室なのにしばらく教授がいなかった。私が卒研で研究室を決める時期だったが、この教室を選ばなかった。

すべてではないが、国立大学（特に地方）に進学するより、私立大学に進学した方が“出る杭はうたれる”ことは殆どなく、学生が大切に扱われるので、私大では優秀者は学費が全額免除になることを合わせれば、学生にとって勉強がやりやすいのは断然私立大学のほうだと思っている。

私が読んで感銘をうけた本に“HSPと分子シヤペロン”という一般書がある。HSPに焦点をおいた内容ではあるが、薬の開発（創薬）は自分がこの世からいなくなってもあとに残る、という記述がある。やたらとノーベル賞という語句が出てくるが、読んでみると「薬学を専攻してよかった」と改めて感じる内容であり、お薦めの一冊である。

まだこちらに赴任して1年も経っていないが、新しいことに慣れてくると同時に見えなかったものも見えてくるだろう。しかし、自分が選んだ道なので挑戦して行こうと思う。青森県のように薬剤師が不足している地域では地域貢献にもつながり、教育研究を通して青森県の薬学の発展のために貢献していきたい。今はまだ学生たちの殆どが調剤薬局薬剤師を目指しているが、薬学研究者になることにも興味をもつ学生も増やして行きたい。

自家用車を購入するため印鑑証明を取得するのに青森市民になる必要があった。東京都民から青森市民になったときは一瞬がっかりしたが、青森ナンバーのフィットはすぐに私の愛車となった。愛車のフィットで大学に通勤するのは毎日楽しい。

最後にこのような寄稿の機会を与えてくだ

さった同窓生の道見幹事長と中西支部長に感謝申し上げます。三金会の皆様の発展と薬窓会首都圏支部の益々の発展をお祈りします。

## チャラ男と根回しオヤジとおせっかいオカン？

(㊶、H2年卒) 齋藤(花山)みのり

いきなり下卑たタイトルですみません。

4年間の富山での大学生活を終え、故百瀬先生に「世界にいちばん近い場所に行きたい」と豪語して東京に出た。今はアステラス製薬にてドラッグリパーパシング部を率い、つくば研究学園都市にいる。

ドラッグリパーパシングとは既存品や研究開発中止品等に、違う観点からの評価をすることで、異なる適応症への治療薬として再活用するという活動である。近年はITの発達で情報を網羅し、総合的に解析することが可能になってきているが、その中から研究員が眼と鼻を効かせ、新たな道を探るという点では創造活動であることに変わりがなく、イノベーションという言葉をさらに強く意識している昨今である。

最近では、「イノベーションとは創造性と実現力」という理解が気に入っている。では、その創造性と実現力を高める要素は何か。

創造性には、強いつながりより弱いつながりの多さが重要であることが示されているらしい。すなわち、弱いつながりを多く作ると、結果的に自分から遠いところの情報を受容し知の探索を行うことができる。医薬大の大先輩からも「創造性は移動距離に比例する」という記事を教えていただいた。自分から動くこと、また緩いネットワークを持ち続けること、そして自身の感度を上げておくこと(どんな眼鏡をかけて情報をキャッチするか)、がキモだと思う。

一方、イノベーションは創造性だけでは実現されない。数多くのハードルを乗り越える胆力と、ヒトのサポートを得る力が必要で、そこは逆に強い人脈が有効だと言われている。粘り強い、人脈を駆使し場を整えていく、でもなぜか憎めない、そんな人がイメージされる。

これらをチャラ男と根回しオヤジと表現している人がいた(ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学、入山章栄著)。いず

れも男性なのは少々違和感があるが。

自分の役割は何かと考えると、創造性と実現性を発揮しやすい風土、マッチングしやすい風土を作ることに他ならないと思う。知の探索ができるように、対話の場を作ったり、会社にいるばかりじゃ能がないよと休暇取得を促したり。または一人で何でもやろうとして空回りする部下に対して、より良い組み合わせを苦心したり。それに加えて、「最近いい顔して仕事してるね」とか、「\*\*さんのあの仕事のために、ぜひあなたの力が借りたい」、「みんなでこんな風に最終形に持って行けると最高だよ」とか、共感というか情感に触れるおせっかいオカンの特性を追加することで、組織に違った熱感を作り出せばいいなと思っている。なので皆さん、力を貸してください！

そして、冒頭のチャラ男チャラ女として弱いつながりを多く持つためにも、みんなで薬窓会に顔を出しましょう。

## 焼肉パーティー

(㊷、H3年卒) 坂東裕志

薬品製造化学講座(以下、製造)で、ご指導いただいた百瀬雄章先生が昨年亡くなられた。製造出身の私にとっては一昨年の高畑先生に続いての不幸である。そんな私から、百瀬先生との思い出などを交え今の気持ちを述べたいと思う。

製造の同期であるI君は、現在も有機合成の研究で新薬の開発を目指している。私も新薬を目指し有機合成研究にいそしんだ時もあったが、もう遠い昔の話となってしまった。大学の研究室での経験を活かして長きに渡り働けるのは、多くの人にとって憧れであると思う。そんなI君と私とは勤務先が関西と関東で離れているため、最近では年賀状ぐらいのやり取りしかなかった。しかし彼が昨年転職で東京に単身赴任してきたため、久しぶりに飲みに行こうということになり、先日、神田の焼肉屋に行った。焼肉は私の好物である。しかも、そのお店はA4、A5ランクのお肉しか置いていないため、出てくるお肉はどれも美味であった。一緒に連れて行った若い子たちも「美味しい〜。」と一心不乱にパクついているのである。確かに出てくるお肉はど



れも素晴らしく美味しいのだが、私は途中からぱったりと食べられなくなったのである。高級焼肉の代名詞ともいえる「サシ」つまり「脂」を私の胃が拒否し始めたのである。こうして、また自分の老化を改めて感じた次第である。

時は遡ること25年ほど前。製造の教室では毎月1回焼肉パーティーが開かれていた。

「向上心が強く、研究熱心」という理由ではなく、囚人のように実験を続け（させられ）ている学生に対しての少しばかりのねぎらいの気持からであろう。我が講座の教授である百瀬先生が、毎月自らお肉を買ってきて我々に食べさせてくれるのである。焼肉パーティーが開かれる月に一度の土曜日の午後だけは、実験が休みになり、昼から酒を飲み、肉を食べた。我々と同様に毎晩深夜まで実験している他の有機化学の講座の人たちから見たら、「羨ましいな〜」と思われたことであろう。

でも、でも、でも、でも、でも・・・

焼肉を食べさせていただいている立場でありながら大変申し訳ないが、我々製造の学生たちは、誰もそんなに喜んでいなかったのである。いろいろ理由はあるのだが、何といっても一番の理由は・・・

百瀬先生から頂けるお肉は、必ず豚肉なのである。百瀬先生が大好きな豚肉。焼肉と聞いて豚肉を想像された方が、どのくらいいるでしょうか？確かにとてもおいしいお肉でした。そのまま焼いてもおいしいし、とんぺい焼きにしてもおいしい。焼きそばなんかに入れてはもったいないくらいのお肉でした。でも我々がしているのは焼肉なんです。焼肉と言えば牛肉でしょう。誰が何と言っても牛肉。相手がモンゴルの人だって、北海道の人だって、その他の肉を焼く料理を焼肉とは呼ばせない！それは別の料理！キーーッ。

そんな百瀬先生の一番の思い出は何と言ってもプレゼンテーションでのご指導。内容はもちろんだが、話し方に特に厳しかった。

私：この結合については、えー

百瀬：「えー」は、いらん！！何の意味がある！えーという間があったら黙ってる！！  
坂東：AよりBを合成し〜

百瀬：「より」は比較の時に使う言葉だ。経過を示す言葉は「から」だ！！

坂東：その結果、〇〇になりますう〜

百瀬：語尾ははっきり言え！！でも、上げすぎるな！！結論がはっきりしないと、何を言っても伝わらん！！

全てがこんな調子なので、みんなビビってしまい、余計に小声で早口になり、語尾がはっきりせず、また叱られるの繰り返し。学生の当時は本当に苦痛だったが、何度もやり直せばダメな私でも少しずつは慣れてくる。大学院を卒業するころには、随分自信を持って発表に臨むことができるようになった。

いろいろとご指導いただいた中でも、とても印象に残っており、今でも大事にしている教訓がある。

「プレゼンを立て板に水で話してはいけない。プレゼンの時は、聞いてくれる人が話を理解しているか、退屈していないか聴衆を見回しながら、話をするようにしなさい。理解が出来ていない人がいるようなら、再度繰り返して説明する必要がある。退屈していそうなら、少し話題を変える。そういうのが正しいプレゼンテーションだ。立て板に水というのは、聴衆の様子が分からない人の話し方だ。」

うーん。20年以上前にスティーブ・ジョブズの話し方を教わっていたとは。出来の悪い私には、いまだに実践が難しいところである。

そんな厳しさや大切なことを教えてくれた百瀬先生が昨年亡くなられた。まだ教えられたことが実践できないうちに。でもうまく実践は出来なくても理解はしている。百瀬先生から教えていただいた大切なことを今後も大事にし、また私も若い人たちに伝えていきたいと思う。

I君、また飲みに行って、製造時代の思い出を語り合おう。今度はサシの少なそうなお肉がメインの「〇角」で。

## 百瀬雄章先生との思いで

(㊟、H9年卒) 宅和友文

私が、百瀬先生の薬品製造学教室の門をたたいたのは、何とか4年次に進級できる事がわかり、お世話になる事がほぼ決まってお挨拶に伺った時の事でした。当時は有機合成を行っている教室は3つありましたが（合成、製造、薬化）、いわゆる3K「きつい」「きたない」「危険」と言われていた合成系の教室はあまり人気無く、希望教室調整の際にも、同学年の皆の前で黒板の「薬品製造学教室」の欄に自分の名前を書き込んだ時には拍手が起こったのを今でも良く覚えています。ただ、高校生の頃から、創薬の研究をしたいと思い

当時の富山医科薬科大学に入学した自分にとって、有機合成化学は魅力的な学問であり、何より実験実習は楽しかったのです。それはさて置き、何故、製造の教室を選んだのか、と思ひ起こせばきっかけは百瀬先生がいらしたからです。後で知った事ではありますが、中学で教えていらしたご経験もある百瀬先生は非常に教育熱心で、授業の板書も達筆でした。先生の授業で有機化学の面白さと、巧みさ、更に不思議さと重要性を教えてくださいました。研究室に配属になってからは教授として教鞭を取られる忙しさから、直接、実験のご指導を受けることは少なくなりましたが、勉強会や懇親会でも多くの事を教えていただきました。研究室恒例の焼肉パーティーや誕生日会でも「おぬしは・・・」と言う独特の語り口調で、常に場の中心的存在として話題を提供され、また、時にその場も教育の場でした。例えば、飲み会の席でも、「薬剤師というものはビールを注ぐ際にもラベルが上になるように傾けるものだ！（薬品の液だれにより、ラベルが汚れないように配慮）」という具合です。また、卒論、修論等の添削にも人一倍時間を割いてくださり、真っ赤になって返ってくることも常でした。自分の文章がいかにか拙いのかをこの時に改めて痛感し、訓練頂いたと感じています。人生における大きなポイントである就職の場面でも、当時の山之内製薬を勧めていただき、縁あって入社する事となり、高校生からの念願であった創薬研究にも従事する事が出来ると共に、社会へと送り出して頂きました。この様に受けたご恩をここに書ききることは到底かないませんが、深い感謝とともにご冥福を心よりお祈り致します。

## 空前のゴルフブーム到来！？

(㊟、H14年卒) 伏木 洋 司

この首都圏遠久朶誌では例年ゴルフクラブ便りが掲載されており、きっとわたしの記事もその直前あたりに掲載されるんだろうな～、掲載してもらったらこんな若造でも薬窓会のコンペに呼んでもらえるかなあ、などと思ひながら筆ならぬタイピングを走らせ始めました。

タイトルにもあるように、今わたしの周辺では空前のゴルフブームが到来しています。個人的なゴルフ歴で言うと、子どものこ

ろに田んぼの稲刈りが終わった稲の切り株にゴルフボールをおいて親父のアイアンで打って遊んでいたころを含めればもう30年以上となりますが、きちんと自分のクラブとラウンドを始めてからは10年ほどになります。その間、同年代の会社の野球部仲間や部署の先輩とたまにラウンドすることはありましたがせいぜい年に4-5回でした。それがこの2-3年でゴルフをする方がぐっと増えて、特に責任ある立場の先輩方などがゴルフに復帰されるケースが多く、お誘いいただける機会も増えたため、昨年は本コースだけでも15回を超えるラウンドをすることになりました。とはいえ根っからの根気の無さから練習を怠っているの、スコアは少しも改善することはありませんでした。

そんなゴルフですが、先にも書いたように大先輩方がゴルフ復帰・遅咲きデビューされるケースも多く、必然と普段はお話すらできないような先輩方と一緒にラウンドさせてもらう機会も増えました。ラウンド中は基本的に仕事の話などはせず、楽しく会話をしながらそれぞれのショットに一喜一憂して一日を過ごすわけですが、普段の仕事でたまにお会いするときに、あるいはプレゼンをする機会があった場合に、これまでとは違う心持ちになってきました。多分にわたし個人が図々しい性格であることも幸い(?)しているとは思いますが、ゴルフをきっかけに先輩方との距離感がぐっと近づいたのではないかと感じています。距離感が縮まることは良いことですが、その分仕事ぶりも見られている訳ですので、日々創出するデータや資料作成にもほどよい緊張感を保っているのではないかと感じています。

コミュニケーションの欠乏が叫ばれている昨今、ゴルフに限らず共通の趣味を通じた人脈形成は今も昔も変わらぬ社会人としての素養なのかな、と4歳を目前に少し大人の気分になってきた今日この頃です。スコアも多少、大人になれば良いのですが。

## 再現性の重要さ

(㊟、H27年卒) 中村 勇 斗

皆様、初めまして。第102回卒の中村勇斗と申します。私は富山大学大学院(修士)を終了し、現在は都内の研究所(限りなく埼玉県

に近い埼玉で働いているとよく勘違いされます)で研究業務に従事しております。学生時代には、病態制御薬理学研究室の笹岡利安教授のご指導のもと糖尿病に関する薬理研究を行ってまいりました。研究所においても、疾患は異なりますが薬理の研究に携わっています。社会人として働くといった環境の変化になれないこともあります。製薬会社で創薬に従事し人の健康に繋がるような薬を創ることに携わることができ、うれしさと共に充実感を感じながら研究を行っております。

私は三重県出身であり、太平洋側の人間としては大学生活を過ごした富山での雪や雨といった気候に順応することに四苦八苦していたので、配属が東京に決まった際にはかなりうれしかったです。一方で、東京に移り住んでから一年というもの、現在では富山で慣れ親しんだ気候が恋しくなっている私もあります。

さて、去年は富山大学のOBの方々のお誘いもあり、歴史ある富山薬窓会首都圏支部総会に初めて参加させていただきました。国内トップレベルの製薬会社だけでなく著名な大学でご活躍されている方々が多数参加され、富山大学の先輩を尊敬する気持ちとともに、私も将来後輩に尊敬されるような存在となれるよう日々の生活を送ろうと強く感じました。また、右も左も分からない新人である私を皆様温かく迎え入れてくださり、普段お話しすることの出来ない年代の方々と交流することで非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。この場を借りて深く御礼申し上げます。まだまだ未熟者ではありますが、富山大学卒業生として恥ずかしくないよう成長していきたいと思っております。

最後になりましたが、表題につけさせていただいた“再現性の重要性”とは研究を行う際に私が個人的に非常に大事にしているポイントであります。それだけでなく、社会人になって始めたゴルフを行っている際にも身をもって重要性を痛感しているものでもあります。ただ1回のナイスショットがスコアをよくするというわけではなく、再現性よく常に一定のショットを行うことが良いスコアへと繋がっていきます。研究においても、1回の実験で得られた結果がどれほどすばらしくても、再現性を無視したものであっては創薬へと繋がるものにはなりえないと痛感しております。今後研究で意識することはもちろんですが、趣味のゴルフにも反映させ上達していきたいと思っております。薬窓会のゴ

ルフコンペなど機会がありましたらぜひ参加させていただきたいと思っておりますので、その際はご指導のほどよろしくお願い致します。

長くなりましたが、今後とも何卒宜しくお願い致します。

## 一期一会を大切に

(㊟、H27年卒) 小澤 茂 喜

私は2015年3月に富山大学大学院を卒業しました、102回卒生の小澤茂喜と申します。大学時代は酒井秀紀教授(薬物生理学研究室)のご指導のもと、イオンチャネル等のイオン輸送タンパク質に関する研究をしてまいりました。現在は東京のCRO(開発業務受託機関)に勤めており、新薬の開発業務に携わっております。岐阜県で18年、富山県で6年間生活してきました私にとって、車が不要な生活、毎朝の通勤ラッシュ、張り巡らされた路線図、映る民間放送の多さ、外国人観光者数...東京で暮らす毎日にはいつも驚かされております。

東京に来てから早いもので約一年が経過しました。周りの生活環境が大きく変化する中、私が社会人になって感じたことは「人とのつながりの大切さ」です。大学院卒業式後の謝恩会に出席した際に、薬窓会首都圏支部総会のお話を支部長の中西様から伺いました。恩師の酒井教授もこちらの総会に参加されると聞いておりましたので、軽い気持ちで参加させて頂きましたが、あの時、参加して本当に良かったと思っております。

総会後の懇親会では研究職、臨床開発職、薬剤師など様々な領域でご活躍されている先輩方と交流させて頂きました。そこにいらっしゃった皆様は非常に優しく、社会人一年目の私を温かく迎えて下さりました。6月当時の私は東京で暮らしていくことに大きな不安を感じておりましたが、関東でご活躍されている富山大の先輩がこんなにたくさんいるのだと気付くことができ、今後働いていく上で大きな自信となりました。次年度の総会にもぜひとも参加させて頂きたいと思っております。

私事ではございますが最近はいよいよ多くの方と交流するために、(運動不足解消のために)社会人バスケットボールの活動にも参加しております。様々な世代の方が参加しており、共通の趣味のバスケットボールを通じて楽しく健やかに活動しております。新しい事を始

める時は正直不安に思うことも多くありますが、その先にある「人とのつながり」を大切に、今後も様々な事に挑戦し続けていきたいです。

最後になりますが、今後も富山大学薬学部  
の卒業生であることに誇りを持ち、日々の業  
務を全力で実施していきます。まだまだ社会  
人としては半人前であり、会社の上司からご  
指導頂くような毎日ですが、次年度の総会  
では少しでも成長した姿を皆様にお見せでき  
たらと存じます。今後とも、何卒よろしくお  
願い申し上げます。

## ゴルフクラブ便り

10月22日(木)、薬窓会ゴルフコンペはお天  
気の神様に守られて(……イエイエ、晴れ女  
のみなさまのお力です!)、今回も快晴です。  
会場は、伊勢谷篤弘さん(47回)のご尽力に  
よって格安で予約できた名門「八千代ゴルフ  
クラブ」です。

スタート前には、17人のゴルフ好きが集  
合しました。今回は久しぶりに、富山から川村  
長生さん(46回)が参加してくださいました。  
奥さまは残念ながら日程が合わずに不参加  
でしたが、長年の会員はみなさん、“久しぶ  
りの名手との勝負”に燃えて、大喜びでした。  
女性会員も、布施米子さん(55回)、井上満  
子さん(55回)、大塚幹子さん(70回)が連  
続して参加してくださいました。

さて今回「特筆したいニュース」は、大塚  
幹子(70回)さんが『ベスグロ』(当日、最  
少のスコアでプレーできた選手を讃える称号  
で、少しは“運”が左右する『優勝』よりも  
実力が必要とされる)を獲得されたことです。  
女性会員の『ベスグロ』は、これまで86回  
の歴史の中ではなかった“快挙”でした!!

懇親会で行われた「表彰式」では、名手各  
位から惜しみない賞讃の声が上がりました。  
過去に何度もベスグロを獲得して来られた  
“47回トリオ”の「小国益男さん」や「関誠  
さん」、「伊勢谷篤弘さん」も大絶賛でした。  
大塚さんのスイングは、学生時代に「ハンド  
ボールで鍛えられた」という柔らかな身体か  
らスムーズに繰り出されるもので、ボールに  
当たるときの“カーン”と澄んだ快音は、誰  
もが思わず、「ナイスショット!」と声をかけ  
たくなるようなすばらしいものです。

今回は、最長老の「高木良造さん(44回)」

がカメラマンを引き受けてくださり、写真  
を掲載することができました。

なお、今回の成績ですが、優勝は「都築正  
明さん(56回)」、準優勝は「関誠さん(47回)」、  
ブービーは「諏訪庸夫さん(51回)」でした。

また今年、首都圏支部の会報に投稿して  
くださった支部会員の若手の中から、「薬窓会  
のコンペ」に参加してみたいという希望者  
が二人も現れて、事務局としては大いに喜  
んでおり、次回のコンペからご案内を差  
しあげるつもりです。

(事務局：㉞、S43年卒 柿崎 直和)



## 100字通信

旧職員 渡辺 和夫

お陰様で81歳。元気です。半の字を分解し  
て八十一、半寿というそう。美智子皇后の  
誕生日で知りました。

若水を健やかに汲む半寿かな 和夫

最近、俳句協会の会員に推薦されました。

㉞、S34年卒 川畑 耕祐

平成9年9月にエーザイKKを定年退職して  
満18年が過ぎた。現在スーパーの薬品コー  
ナーに勤務薬剤師として週3~4日勤務して  
いる。又月に一度川柳と俳句の例会に出席  
してボケ防止に努めている。小生の駄句を  
一句。「秋深し詠り飛び交うクラス会」

㉞、S34年卒 森 哲朗

傘寿を迎え、昨年3月今迄勤めていた会  
社を退職して、残された人生をいかに楽し  
く過ごすか、そのためには健康寿命を少し  
でも長引かせる必要があり週5日午後から  
スポーツジムと水泳に通って、健康投資に  
励んでいます。

④、S36年卒 川上 惇  
 今年は雪が少ない。そのためマスターズスキー競技会は二つも中止になった。2月にスイス・ダボスに富大スキー部0Bで出かけた。ここも雪は少なかったが、標高が高いので十分スキーを楽しんだ。温暖化はスキーの敵だ。

⑤、S38年卒 宮澤 英雄  
 75歳で仕事を辞めました。現住所の町内会（約500軒）でゴルフの会と囲碁・将棋の会を2つとも立ち上げて10年が過ぎました。高齢者見まもりネットワークの一環として少しでもお役に立てれば、と思っています。

⑦、S63年卒 塚本由弥子  
 薬剤師の職能を考えてみたいと思い早二年。尊敬すべき先輩、後輩に巡り会え、その縁に感謝し、また、励まされて過ごしております。

⑩、S48年卒 中西 憲幸  
 関西人の私が落語にはまっている。国立演芸場でトリを務めた柳亭市場の落語がきっかけである。赤めだかの立川談春の「紺屋高尾」は職人が花魁に恋する話だが、涙が止まらない。今度は立川志の輔の独演会に行ってくる。興味のある方はYou Tubeでどうぞお聞きください。

⑬、S54年卒 道見 茂樹  
 今年も家庭菜園の話題です。長芋がどんどん増えています。最初は食べ残しの切れ端から芽がでて、数年放っておいたら、そのうち“むかご”ができて、それからも芽が出て成長するという繰り返しで、今では長さ80cm位のが十本以上、掘るのが大変です。

⑱、S56年卒 笹又（清水）理央  
 昨年の薬窓会首都圏支部総会に参加し久しぶりに同門の先輩方とお会いすることができました。その後、恩師である渡辺和夫先生を囲む会にも参加することができました。このような縁を大切にしていきたいと思っております。

## 平成27年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会  
 平成27年度首都圏支部定期総会  
 平成27年6月27日（土） ビジョンセンター日本橋
2. 幹事会  
 第1回幹事会：  
 平成27年9月25日（金） ビジョンセンター東京  
 第2回幹事会：  
 平成27年11月26日（木） ビジョンセンター東京  
 第3回幹事会：  
 平成28年2月4日（木） ビジョンセンター東京
3. 平成28年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付：  
 平成28年2月5日発送
4. 平成27年度薬窓会本部総会・卒業謝恩会：  
 平成28年3月23日（水） 中西、阿部
5. 平成27年度薬窓会近畿支部総会：  
 平成27年6月14日（日） 道見
6. その他  
 薬多津三金会（毎月第三金曜日開催）  
 於：多津よし（東池袋）  
 五福会 5月19日（火）  
 於：白山富山会館

## 総会参加者・年会費納入者 推移

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
総会参加者	68名	84	71	64	69
年会費納入者	288名	278	237	282	292

## 平成27年度 首都圏支部役員

支部長 : S48年卒 中西 憲幸  
 副支部長 : S46年卒 加藤 健二  
                   H8年卒 平岡 良隆  
 幹事長 : S54年卒 道見 茂樹  
 副幹事長 : S43年卒 柿崎 直和  
 監 事 : S47年卒 松本茂外志

## 平成27年度会計報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	5,143,132	5,143,132	
年会費	400,000	362,540	
総会参加費	500,000	450,000	
普通預金利息	1,000	792	
合 計	6,044,132	5,956,464	

  

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	450,000	419,500	
会合費(幹事会等)	80,000	68,122	
事務通信費	100,000	106,410	
同好会補助費	40,000	20,000	
会報発行費	400,000	417,310	
出張費	60,000	90,000	
事務局費	100,000	64,800	
次年度繰越金(普通預金)	4,814,132	4,770,322	
合 計	6,044,132	5,956,464	

## 平成28年度予算(案)

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	4,770,322	総会費	450,000
年会費	400,000	会合費	80,000
総会参加費	500,000	事務通信費	100,000
普通預金利息	500	同好会補助費	40,000
		会報発行費	450,000
		出張費	90,000
		事務局費	100,000
		次年度繰越金(普通預金)	4,360,822
合 計	5,670,822		5,670,822

# 平成27年度 支部年会費納入者一覧

(合計 292名)

※平成27年5月から平成28年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
27	昭和14	片桐昌義	44	昭和32	高瀬清孝	48	昭和36	油木劭之
28	昭和15	岩崎光一	44	昭和32	永田邦夫	48	昭和36	川上 惇
31	昭和18	渡会春雄	44	昭和32	林 吉孝	48	昭和36	川上芳子
34	昭和21	織井文貞	45	昭和33	荒木紀子	48	昭和36	熊木健治
35	昭和22	野村哲夫	45	昭和33	大郷利治	48	昭和36	定留温子
35	昭和22	今田 清	45	昭和33	児玉英篤	48	昭和36	樋口明彦
37	昭和24	渋谷 明	45	昭和33	近藤美子	48	昭和36	船場定信
37	昭和24	千葉繁治	45	昭和33	佐藤 忠	48	昭和36	前田伸子
37	昭和24	水牧勝美	45	昭和33	佐藤池鶴子	48	昭和36	三浦 晋
37	昭和24	山口輝夫	45	昭和33	佐野健治	48	昭和36	村杉和子
37	昭和24	大和宗雄	45	昭和33	新森信正	48	昭和36	吉田誠一郎
37	昭和24	松岡邦衛	45	昭和33	竹道孝慶	48	昭和36	吉田光昭
38	昭和25	河津光高	45	昭和33	橋浦十八	49	昭和37	小川信吾
39	昭和26	米丸洋子	45	昭和33	古谷 隆	49	昭和37	鈴木国男
40	昭和28	千原秀夫	46	昭和34	安藤統美	49	昭和37	関戸将裕
40	昭和28	飛田秀雄	46	昭和34	尾嶋司郎	49	昭和37	長谷川信治
41	昭和29	志甫 正	46	昭和34	川畑耕祐	49	昭和37	長谷川達子
41	昭和29	前川 昶	46	昭和34	齊藤諒三	49	昭和37	林 幸子
41	昭和29	松田利子	46	昭和34	森 哲朗	49	昭和37	土方久家
41	昭和29	基常弘晃	46	昭和34	結城澄子	49	昭和37	古谷 孝
41	昭和29	上銘外喜夫	47	昭和35	伊勢谷篤弘	49	昭和37	三尾美和子
42	昭和30	荒川泰蔵	47	昭和35	市中滋郎	49	昭和37	見義治子
42	昭和30	久世啓吾	47	昭和35	梅原 弘	50	昭和38	秋本紀子
42	昭和30	佐藤正美	47	昭和35	上村恵子	50	昭和38	飯田武治
43	昭和31	上野謙爾	47	昭和35	倉石弘一	50	昭和38	木原幸弘
43	昭和31	落合信雄	47	昭和35	小国益男	50	昭和38	櫻井久子
43	昭和31	久郷正孝	47	昭和35	須藤昌二	50	昭和38	高野祐子
43	昭和31	車田知之	47	昭和35	関 誠	50	昭和38	武石万里子
43	昭和31	古徳 治	47	昭和35	並木英明	50	昭和38	福田昌平
43	昭和31	細 信彦	47	昭和35	古川貞子	50	昭和38	前田一郎
43	昭和31	本多 存	47	昭和35	室生知子	50	昭和38	脇谷紀代子
43	昭和31	山岸伸郎	47	昭和35	安川正巳	51	昭和39	石塚典子
43	昭和31	脇田秀雄	47	昭和35	安川椒子	51	昭和39	加賀美壯一
44	昭和32	紙谷得子	47	昭和35	若林庸夫	51	昭和39	島田庄蔵
44	昭和32	車田千秋	47	昭和35	橘 眞郎	51	昭和39	島田輝子
44	昭和32	鈴木芳子	47	昭和35	城宝史郎	51	昭和39	諏訪庸夫
44	昭和32	高木良造	48	昭和36	安宅久弥	51	昭和39	塚越由美

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
51	昭和39	那須邦久	56	昭和44	鈴木英世	60	昭和48	堀川香代子
51	昭和39	長谷川悦子	56	昭和44	深澤 宣	61	昭和49	石塚隆文
51	昭和39	横山春江	56	昭和44	山本 恵	61	昭和49	梶谷早苗
52	昭和40	小野澤カツ子	56	昭和44	横山司甫	61	昭和49	清永城右
52	昭和40	是枝 潤	56	昭和44	綿鍋維男	61	昭和49	杉林堅次
52	昭和40	中島良信	56	昭和44	加藤正子	61	昭和49	戸谷賀代子
52	昭和40	廣瀬南海子	57	昭和45	天笠之珠子	61	昭和49	久野博司
52	昭和40	星野洋子	57	昭和45	石川ふさ子	62	昭和50	西山信右
53	昭和41	安西慶子	57	昭和45	伊藤要一	62	昭和50	萩野洋子
53	昭和41	岩崎孝一	57	昭和45	北野栄一	62	昭和50	保坂久美子
53	昭和41	木村信子	57	昭和45	服部 仁	63	昭和51	泉 眞美
53	昭和41	中村和子	57	昭和45	保坂公平	63	昭和51	高橋裕子
53	昭和41	林 聰	57	昭和45	松林久一	63	昭和51	萩野幸司
53	昭和41	深田和代	57	昭和45	奥村淳子	64	昭和52	河村光恵
53	昭和41	南 法夫	57	昭和45	古屋典子	64	昭和52	坂口一夫
53	昭和41	村上則彦	58	昭和46	石井誠司	64	昭和52	鈴木利之
54	昭和42	市川 隼	58	昭和46	石田行知	64	昭和52	西山 祥
54	昭和42	市川春子	58	昭和46	上田宗央	64	昭和52	真船英一
54	昭和42	金森朱美	58	昭和46	加藤健二	65	昭和53	大岸洋子
54	昭和42	小島孝子	58	昭和46	河内秀明	65	昭和53	関口 且
54	昭和42	佐藤和恵	58	昭和46	末木一夫	65	昭和53	金本郁男
54	昭和42	庄司孝市	58	昭和46	千田耕平	65	昭和53	山田健久
54	昭和42	庄司幸子	58	昭和46	津久井和夫	66	昭和54	井上 豊
54	昭和42	長谷見蓉子	58	昭和46	穂苺 茂	66	昭和54	井上彩子
54	昭和42	山口征司	58	昭和46	松田閑枝	66	昭和54	鹿田史紀
55	昭和43	阿部 啓	58	昭和46	村田悦郎	66	昭和54	加藤浩嗣
55	昭和43	石橋嘉夫	58	昭和46	吉富恭助	66	昭和54	金子美代子
55	昭和43	梅本美智子	59	昭和47	市川妙子	66	昭和54	川崎英之
55	昭和43	太田晴美	59	昭和47	井本直樹	66	昭和54	草柳淳子
55	昭和43	柿崎直和	59	昭和47	駒田由美子	66	昭和54	鈴木千世
55	昭和43	加藤忠昭	59	昭和47	清水善行	66	昭和54	道見茂樹
55	昭和43	杉田惇子	59	昭和47	信澤澄江	66	昭和54	道見優子
55	昭和43	鈴木 隆	59	昭和47	松本茂外志	66	昭和54	萩原いく江
55	昭和43	滝沢春美	59	昭和47	三輪 保	66	昭和54	原 信行
55	昭和43	檀原宏文	60	昭和48	大西美知子	66	昭和54	真船恭子
55	昭和43	牧野由紀子	60	昭和48	加藤マリ子	68	昭和56	浅川朋子
55	昭和43	松野 萌	60	昭和48	北山 緑	68	昭和56	木村須賀子
55	昭和43	南 菖子	60	昭和48	田中加代子	69	昭和57	小林真弓
55	昭和43	井上満子	60	昭和48	田谷栄子	69	昭和57	塚本尋子
55	昭和43	奥村啓輔	60	昭和48	中西憲幸	69	昭和57	野尻幸子
56	昭和44	金 知出	60	昭和48	水野洋子	69	昭和57	竹内 誠
56	昭和44	酒井綾子	60	昭和48	山下晴義	70	昭和58	浦本博志



回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
70	昭和58	遠藤義之	77	平成2	的場義典	91	平成16	小倉美世子
70	昭和58	織田寿久	77	平成2	山本善一	92	平成17	平良麻里
70	昭和58	笠原貴子	77	平成2	織部幸子	93	平成18	齋藤智之
70	昭和58	茂呂今日子	77	平成2	齋藤みのり	93	平成18	平良重弘
71	昭和59	宇野澤宣司	78	平成3	坂東裕志	95	平成20	竹野伸洋
71	昭和59	黒田豊志	80	平成5	渡邊常作	97	平成22	宅間祐太郎
71	昭和59	近藤高史	83	平成8	鎌倉昌博	97	平成22	樋口
71	昭和59	小澤佐余子	84	平成9	平岡良隆	98	平成23	苅谷有希
71	昭和59	松井哲夫	84	平成9	膝附由香	99	平成24	五月女達也
72	昭和60	嵯峨 学	84	平成9	木村 徹	99	平成24	高橋遼平
72	昭和60	畑中朋美	84	平成9	宅和知文	99	平成24	今井亮太
73	昭和61	阿部浩之	84	平成9	石崎雅之	102	平成27	中村勇斗
73	昭和61	阿部裕子	85	平成10	川邊香代	102	平成27	小澤茂喜
73	昭和61	金子智彦	85	平成10	高瀬明子	旧職員		渡辺和夫
75	昭和63	伊藤由布子	85	平成10	孫田美奈子	旧職員		中込和哉
76	平成元	朝倉 渡	86	平成11	鶴飼政志	旧職員		根本信雄
76	平成元	畠山伸二	86	平成11	鈴木智之	他、匿名希望	1名	
77	平成2	紺谷 徹	89	平成14	伏木洋司			
77	平成2	増本純也	90	平成15	山木陽子			

### 薬多津三金会 今年の開催日

5月20日（金）、6月17日（金）、7月15日（金）、8月19日（金）、9月16日（金）、  
10月21日（金）、11月18日（金）、12月16日（金）

毎月欠かさず第3金曜日午後6時30分から牛タンを食べながら呑んでいます。

多津よし 東京都豊島区東池袋5-9-6

有楽町線「東池袋4番出口」より徒歩3分

電話：03-3985-8776

## — 首都圏支部年会費振込みのお願い —

これまで、支部の資産減少対策として、年会費1,000円以上への変更、利便性を上げるためのコンビニ振込の採用などの策を採ってきました。

これらの効果が出てきたようで、若干ですが赤字額が改善しつつあります。この趣旨を汲んでいただき、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度1,000円が入金されることになります。

また、このコンビニでこの用紙を使用する場合、振込金額の変更はできないため、別途支部活動への寄付金用の振込用紙を同封してあります。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。

会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願ひ申し上げます

## — 編集後記 —

一昨年、茗溪会館の突然の閉館により一時はあわてましたが、偶然にみつけたビジョンセンター日本橋がアクセスよく、また料理もおいしかったので、当分の間ここで開催できると思っていたところ、2回続けたところでここも閉館になってしまいました。でも、同じ系列のビジョンセンター東京という、これまた交通アクセスのよいところがあり、今年はここに決めました。

今年首都圏遠久朶は、私が編集に携わってから最も多い投稿数で、とても読み応えのあるものになりました。特に東日本大震災に係る記事には、現地に行かなければ知ることができない現状を教えてもらい、5年経過してもまだまだこれからだ、という思いにさせられました。

裏表紙がカラー版になって3年目です。印刷版面の組み合わせでそれ以外のページにもカラー写真を載せられます。定年後に始める趣味の3大人気は「そば打ち」「写真」「陶芸」と聞いたことがあります。写真を趣味にしている方がいましたら、自慢の写真をいただければ掲載いたします。

首都圏支部の運営を若い世代にきちんと引き継ぐためにも、総会や遠久朶をこれまで以上に魅力があり、充実したものとするべく、役員一同これからも努力を続けていく所存です。

ここ数年、総会への新入会員参加があるよう、富山本部の総会後の卒業謝恩会に支部長他が出席して、首都圏に就職する新卒生の連絡先をゲットしてきているのですが、今年もそのおかげで新卒者の総会への出席が見込まれています。

皆様の定期総会へのご出席をよろしくお願ひいたします。

(幹事長 ㊦、S54年卒 道見 茂樹)

## 事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株) 同窓会事務局 : info@egaomax.com

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道 見 : toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

# 総会会場が変更になりました

## 平成28年度「薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：平成28年6月25日（土） 14時00分～18時30分

場 所：総 会「ビジョンセンター東京」401室

懇親会「ビジョンセンター東京」B1 イベントスペース

住所：東京都中央区八重洲2-3-14 電話：03（6262）3553

会 費：男性：8,000円、女性：6,000円（ご夫妻で出席の場合 13,000円）

平成14年3月～平成23年3月の卒業生：5,000円（男女とも）

卒業後5年まで（平成24年3月～28年3月）：無料

話題提供 ① 高瀬 明子氏（第85回卒）

「製薬会社での臨床開発の仕事を通して学んだこと」

② 田中加代子氏（第60回卒）

「癌領域における薬薬連携－保険薬局での取組み－」

- \* 総会に出席された方には、薬剤師研修シール（1点）をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。
- \* 会場が昨年と異なっていますので、よくお確かめください。
- \* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。





平成27年度薬窓会首都圏支部総会（平成27年6月27日、於 ビジョンセンター日本橋）